

日本分析化学会第 65 年会 特別公開シンポジウム

産業界シンポジウム

主催 日本分析化学会 産業界シンポジウム企画運営委員会・第 65 年会実行委員会

期日 9 月 14 日 (水) 13 時 30 分～17 時 30 分

場所 北海道大学工学部オープンホール (年会 A 会場)

参加費 無料 (当日会場へ直接お越しください)

統一テーマ：産業の最前線で活躍する分析化学

趣旨：分析化学には、安全・安心を守る力、モノづくりを支える力、科学技術を進める力があります。企業にとって、前者の 2 つの「力」が重要であることは言うまでもありません。しかし、今般、最先端の分析・解析技術を駆使することで、他に先んじて新しい現象を捉え、それを起点とした新しいビジネス・価値の創造が生まれてきています。さらには、そのために必要なユニークな分析・解析技術開発が、さかんにおこなわれています。企業内の分析化学は、その活動や社会を「支える」だけでなく、「科学技術を進める力」でもあり、産業を「牽引する」大きな役割を果たしています。「産業界シンポジウム」も 3 回目を迎えますが、今回も、産業界におけるさまざまな最先端分析研究と「3 つの力」の実例を紹介していただきます。

趣旨説明 13:30～13:35

(首都大学東京・分析化学会副会長) 内山一美

座長 内山一美

AS1001 (13:35～14:20) 企業における研究開発と分析

(元ブリヂストン・元分析化学会副会長) 加藤信子

AS1002 (14:20～14:55) 原子レベルキャラクタリゼーション技術による製品開発と製造プロセスへの貢献 (TDK(株)テクニカルセンター) 柳内克昭

AS1003 (14:55～15:30) 自動車用有機材料の分析～アミン系物質との反応生成物の分析～

(株)豊田中央研究所有機分析研究室) 須藤栄一

座長 宮野 博

AS1004 (15:40～16:15) 嗜好性を高める食品香料開発における分析の役割

(長谷川香料(株)総合研究所) 黒林淑子

AS1005 (16:15～16:50) 食品の輸出入検査を支える分析技術の開発

((財)日本冷凍食品検査協会) 橘田 規

AS1006 (16:50～17:30) 旭硝子がこだわり続ける分析技術～ニッチトップ技術で社業貢献～

(旭硝子(株)中央研究所) 伊勢村次秀